

2024-9-17

広報誌:宮崎もやいの会  
秋号

## 「挑戦と希望の地域支援・訪問看護ステーションと他機関との連携支援」 のイベント開催に至る経緯！

NPO法人宮崎もやいの会代表 小林 順一

全国に精神疾患者が、614万人(20人に一人・令和2年度患者調査)という現状は、年々増加傾向にあり、誰もが罹患する病気であることを証明していますが、まだ、偏見によって特別な病気・障害として社会に受け入れられない現実もあります。  
(統計上宮崎県に6万人、宮崎市に2万人)

い者にとって、地域生活の中で、特に人間関係や不安に襲われることを解消して、安心して過ごすために、QOL(生活の質)を高めるためのプログラムを実施しています。

そのような中、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、相談支援事業所、就労移行支援事業所の方が訪ねて来られる機会があり、お互い忌憚のない意見交換をすることで、現状に対してアクションを起こしたいですね、という気持ちを共有することが出来たことで次につながるようになりました。

・任意の集まり「語ルシストの会」を立ち上げる  
ただ、真摯に精神障がい者の現状に向き合っている方達と出会ったのですが、2020年にコロナ禍になり、その間、人との接触を避けるということで、集まることが出来ない状況の中、2022年10月あたりからコロナ感染も沈静化してきたことで、任意の集まり「語ルシストの会」を月1回開催することにしました。

カタルシストとの語源である「心のモヤモヤが晴れ、スッキリとした人」ということなので、福祉に携わっていて個人的に抱え込んでいた課題や悩みを解決していくことを目指して、語り集まるということで「語ルシストの会」という会名に決めました。

・地元独自のイベントの開催  
2024年になり、「語ルシストの会」としてイベントを開催しましょう、という意見が出てきたので、企画実行委員を募って1~8月まで毎月会議を開いて、今回のイベント開催になりました。

法人として開催するにあたり、以前は県外から先駆的支援を実践している講師を招いて開催するというのが常套手段でしたが、そろそろ地元の人的資源を活用して宮崎独自の支援を発信することが宮崎の福祉のボトムアップにつながるのではないかと思います、語ルシストの会に参加している方々と共に地産地招のイベントを創り上げました。

今回、イベントの企画・実行メンバーとして関わって頂いた方は、地元で福祉に携わっていて、特に精神障がい者の支援に対して、真摯に向き合う姿勢を持っている方達で、挑戦と希望の志を持っておられる方達に参集して頂きました。



そのような精神疾患者の急増の中、地域支援の充実によって当事者及び家族が地域での生活を希望を持つことが可能になる支援を求めてイベントを企画した経緯を記載します。

・家族として  
私の長男が統合失調所に罹患したことで、精神障がい者の家族という立場で精神障がい者の現状に対して、2006年にNPO法人宮崎もやいの会を設立して理解促進のための啓発活動など色々



と活動してきた中で、日中活動として街中に居場所がある事によって、どれほど家族にとって負担軽減になるか、私も実感していましたので、市に対して地域活動支援センターⅢ型を要望しました。

・地域活動支援センターかふえらて開所  
2017年に地域活動支援センターかふえらてを開所して、精神障がい

# 「挑戦と希望の地域支援・訪問看護ステーションと他機関との連携支援」 イベント開催趣意書

法人として、訪問看護ステーションと他機関や他職種の専門職が連携して精神障がい者の地域での生活を支援するための取り組みを推進することを目的としたイベントを企画しました。



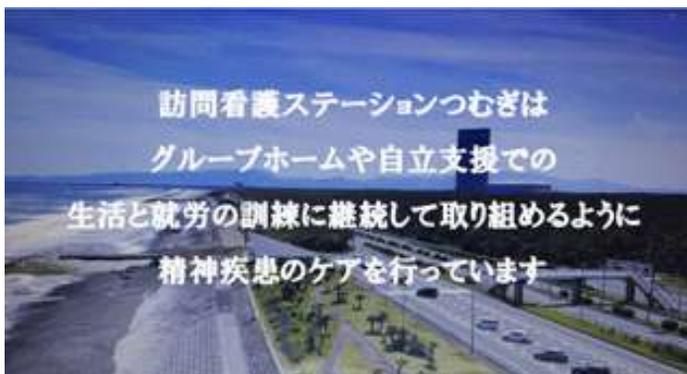
## 訪問看護ステーションすずり

精神障がい者の方々が地域社会で充実した生活を送るためには、医療、福祉、就労、居住などの分野を横断した連携が不可欠であり、訪問看護ステーションを含む各機関や専門職の協力が重要であります。

精神障がい者の方々が地域で充実した生活を送るためには、病状管理や日常生活の支援だけでなく、地域社会への適応や社会参加の支援も必要不可欠です。そのためにも、訪問看護ステーションをはじめとする医療機関や、福祉機関、就労支援機関などが連携し、包括的な支援体制を構築することが求められます。

訪問看護ステーションは、精神障がい者の方々が自宅や地域で安心して生活できるように、定期的な医療管理やケアを提供する拠点です。また、地域他機関や他職種の専門職と連携し、患者のニーズに合った支援を提供する役割も担っています。しかし、これまでの連携は十分に整っておらず、精神障がい者の方々が地域で適切な支援を受けることに課題が残っています。

今回のイベントでは、パート1「訪問看護ステーションの地域訪問支援映像」、パート2「訪問看護ステーションを中心とした連携支援のパネルディスカッション」をメインに訪問看護ステーションの訪問支援と訪問看護ステーションを中心に、利用者のニーズに応じた支援の為に地域の各機関や専門職との連携強化に向けた議論を行います。



## 訪問看護ステーションつむぎ

＜パート1＞訪問看護ステーションの地域訪問支援映像  
イベントの第一部では、「挑戦と希望の地域支援・訪問看護ステーションの積極的支援」と題し、訪問看護ステーションがどのように積極的かつ挑戦的な取り組みを行っているかを描いた映像を上映いたします。この映像では、訪問看護ステーションのスタッフが患者一人ひとりに対して行っている伴走型の個別ケアや、地域社会資源との連携による支援の実際を具体的にご紹介します。

- ・積極的な姿勢: スタッフが前向きな姿勢で患者の自立を促す様子
- ・挑戦的なアプローチ: 新しいアイデアやアプローチを試みる姿勢。
- ・地域との連携: 他機関や専門職との連携による包括的な支援。

＜パート2＞訪問看護ステーションを中心とした連携支援のパネルディスカッション

イベントの第二部では、「連携の力で拓く未来・訪問看護ステーションと他機関の連携事例」と題し、訪問看護ステーションを中心に他機関との連携による具体的な支援に付いてのパネルディスカッションを開催いたします。

- ・実際の連携事例の紹介: 訪問看護ステーションと地域包括支援センターや訪問診療所など他機関との連携事例。
- ・成功要因と課題の共有: 連携の成功要因や課題についての議論
- ・連携のメリットと未来への展望: 支援の一貫性や患者の安心感向上、連携の未来について。



## こころとカラダのリハビリステーションほのか

パート1を通じて訪問看護ステーションの訪問支援を具体的に映像として見える化することで、よりリアリティを持って自分に適した訪看を選択するために必要な情報を提供します。

パート2のパネルディスカッションを通じて、参加者は連携の重要性を再認識し、精神障がい者の地域における全人的な自立を支援するための新たな可能性を見出すことができるでしょう。

本イベントを通じて、精神障がい者が地域で積極的に挑戦や希望を持った生活を支えるための伴走型支援を推進して、訪問看護ステーションと他機関の専門職の連携の必要性を広く周知することなど、精神障がい者の地域支援の未来を共に築いていきたいという思いで開催することになりました。

# 「挑戦と希望の地域支援・連携の力で開く未来！」

～挑戦と希望の地域支援・訪問看護ステーションと他機関との連携支援に関する報告～

- 1、開催日時：2024年8月12日（月曜日・振替休日）
- 2、開催場所：宮崎市民プラザ4階 ギャラリー1
- 3、参加者数：87名（予約者92名）
- 4、テーマ&内容&成果

・パート1：挑戦と希望の地域支援  
テーマ：「3カ所の訪問看護ステーションの訪問支援映像」

## ① 訪問看護ステーションすずり

<https://houkansuzuri.com/>

## ② 訪問看護ステーションつむぎ

<https://kokorocare.co.jp/>

## ③ ココロとカラダのリハビリステーションほのか

<https://www.honoka-miyazaki.jp/>



### <パート1の成果>

動画を観て、それぞれの訪問看護の業務内容や各事業所のポリシーについて理解が深まることになり、他職種との連携の重要性も感じられ、この連携によって患者やその家族にとって安心感をもたらすことになることを理解してもらえらる。

動画の内容が非常に分かりやすく、視覚的に理解しやすかったという意見が多くあり、映像を通じて事業所の特徴や独自性、活動内容が伝わりやすかった、との声もあり、映像による発信がリアリティのある情報提供になり評価される利用者や家族との関係を大切にしている事業所の姿勢が高く評価され、チームプレイでの対応が患者にとって心強く感じてもらえらる。

精神障がい者の地域での生活を支える訪問看護の役割の大きさが実感され、地域の関係機関との連携によって、患者とその家族がより安心して生活できるように支援している点が評価される。



### ・パート2：連携の力で開く未来：

テーマ「訪問看護ステーションと他機関との連携支援に関するパネルディスカッション」

パネラー：訪問看護ステーション3カ所の代表、訪問診療所のスタッフ、地域包括支援センター職員、宮崎市議、という地域で支援している機関の方達がパネラーとして登壇して頂く。

### <パート2の成果>

今回のパネルディスカッションでは、地域支援に関して、訪問による医療や福祉での生活に対する支援の重要性が話されました。特に、患者の居宅訪問が地域支援として認識されることに対する関心が高まり、地域での健康と福祉においての役割が評価されました。また、高齢者や障がい者への地域でのサービス提供の支援が十分に周知されていない現状についてもパネラーから表明されました。

地域連携に関しては、医療・福祉・介護の各分野間の協力の重要性が再三強調されました。具体的な連携事例や課題解決に関する詳細な共有が求められ、他の専門職や機関との横のつながりが、効果的な支援の提供において不可欠であることが改めて認識されました。

また、支援に関連するコメントでは、法制度のグレーゾーンにいる人々への支援の不足が指摘され、制度が存在しても現実的な受け入れが困難な状況に対する声が多く寄せられました。しかし、具体的な事例を通じて支援の方法を学ぶ機会があったことに対する肯定的な意見も目立ちました。

## パート1に関するコメント

・精神障害を支える訪問看護の取り組みがよくわかりました。専門性を生かしつつ、他職種で同じ目的に向かって連携しながら支援をすることが大切だと感じました。

・熱量をバンバン、あきらめずにしっかりとねばりよく、感じました。つむぎさんが、障がいの事業所と連携してのグループホームにつながった事例にはおどろきました。

・精神疾患・医療処置・定期内服(自己管理困難)の為に地域では住めない、ではなく訪問看護という資源がある、検討ができるというのは素晴らしい事だと思いました。また、身体面だけではなく精神面も一緒に支援するという取り組みは、本人・家族にとって、暮らしの安心に繋がっているのがよくわかりました。

・今、ほのかさんが関わってくださっていることで、以前からするととても元気になっていて、とても嬉しかったです。幅広い専門職の方がかかわっていただけて安心です。それぞれの動きがよくわかりました。

・どちらの事業所も利用者や家族との関係づくりを大切にしていると感じました

・1人で抱えずチームで情報を共有しながらケース事に対応されているので、患者側からしたら心強いだらうなと思いました。大変良く支援してくれています。感謝しています。

# パート1・パート2のコメント、協賛各社、宮日新聞掲載、お知らせ、連絡先

・精神疾患をかかえている方が増えていることを痛感した。訪問看護が介入することで他の職種などにつながり、即解決にはならなくてもなんらかの進展はあると思った。看護師とかりハビリ職とか職種というよりも、かかわる人の人柄が大きく影響するのは。

・精神疾患を抱える方が地域での生活を継続する上で訪問看護の持つ役割の大きさを実感した。また、訪問看護だけではなく、相談支援事業所や包括支援センターなど、地域の関係機関と連携することで、対象者やその家族がより安心して生活することができるし、支援者もより良いサポートを提供することができることを感じた。貴重な映像を見せていただき誠にありがとうございます。

・それぞれの事業所からの活動内容を映像と共にご報告いただいたことで、状況が想像しやすく、とても分かりやすかったです。多職種の方々と連携を図りながら、日々利用者様と真摯に向き合われている姿に感動しました。業務を行いながらの動画作成は非常に大変だったかと思えます。貴重な動画を拝見させていただきありがとうございます。

## パート2に関するコメント

・専門職や機関は、「〇〇」に相談してみてもいいと言いますが、専門職や機関は、その専門職や機関の一員であるという看板があるからこそ、他の機関に対しても物を言いやすいのです。「ドクターに言いにくい」という表現もあったかと思いますが、当事者者本人にとっては、ドクターはおろか、訪問して下さる看護師さんやヘルパーさんに対しても壁を大きく感じるものだとすることを心にお留め下さい。

・医療職からの連携の具体的な考え方や事例等が聞けて良かった。こういった素晴らしい志をもった支援者の輪が広がるといいと思った。

・連携についてのすこし具体的な事例や課題、その解決策(線を面にしていくネットワーク)(失敗例も含め)等をもっと突っ込んで聞きたかったです。特に専門職でない人(働けば地域の人とか)との連携等もききたかった。折角沢山のパネラーがおられたので答えるだけでなくパネラー同士のやりとり等(ディカッション)も聞きたかったです。

・語ルシストの会の理念を明確に多くの事業所や関係機関が賛同してもらえるといいなと思いました。

・地域支援・各機関との連携がいかにか大事であるか、情報を共有し、支援していきたい。利用者一番で！

・有意義な話が聞けてよかった。議題を読みあげてもらって助かるが、頭の中に記憶するので大変です。映しだすか、プリントでも確認できるようにしてほしい。

・普段、関わる機会の少ない方達の話聞くことができ、勉強になった。本日の研修を通じて、人とのつながりの大切さを改めて実感した。何かあったとき、互いに支え合いながら支援していくためには、地域の方々とのつながりが重要だと感じたため、こからの業務や生活の中で、人とのつながりを大切にしていきたい。

・それぞれの分野事業所の抱えている課題や連携の実態が見えました。やっぱり横のつながりが重要で、そこから解決する課題もあるということが実感できるディスカッションでした。

・貴重な機会だと思いました。この会自体が利用者・家族ファーストの連携を生むと思いました。

宮日新聞8月18日掲載

## 協賛各社

<p><b>ホームホスピス宮崎</b></p> <p>介護から100歳まで安心して生活できるまでつくりを目標として</p> <p>介護福祉士 介護福祉士 介護福祉士 介護福祉士</p> <p>TEL: 0985-52-0000</p>	<p><b>みつばち診療所</b></p> <p>適切な医療で、実際の生活が出来るように</p> <p>お気軽にお問い合わせください</p> <p>TEL: 0985-41-8938</p>
<p>共同生活援助 介護福祉サービス型 女性棟</p> <p><b>グループホームたんぽぽ 大塚</b></p> <p>QRコード</p>	<p>心と体の「ほのか」に特化した訪問看護ステーションです。</p> <p>TEL: 0985-64-9950</p> <p><b>ほのか</b></p> <p>ケアマネジャーも在籍しています。お気軽にご相談ください。</p>
<p>「自分の家で過ごしたい」あなたの思いを叶えます</p> <p>訪問看護ステーションつむぎ</p> <p>TEL: 0985-72-0365</p>	<p>「お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん」</p> <p><b>すずり</b></p> <p>TEL: 0985-40-2280</p> <p>TEL: 080-7438-3179</p>
<p>いつの日の「想い」が溢れぬかい</p> <p>「障」となり「美」となりあなたらしく「花」ひらく...</p> <p>居宅介護支援事業所</p> <p><b>心の音</b></p> <p>このみ</p>	<p>カタルシストとの経営である。「心のモヤモヤが降り、スッキリとした人」。毎日に直面している人間的に抱え込んでいた課題や悩みを解決していくことを目指して、任意に訪れやすい会!</p> <p>TEL: 0985-71-0036</p> <p><b>「語ルシストの会」</b></p>

## 精神疾患の地域支援模索

訪問看護ステーションの職員らが登壇し、現場の課題などについて話し合ったパネルディスカッション

### 宮崎市 関係者ら意見交換

宮崎市のNPO法人「宮崎もやいの会」(小林順一代表)などは12日、精神障害者に対する地域の支援を推進しようとする関係機関の連携を模索するイベントを市民アライアンスで開いた。訪問看護ステーションや地域包括支援センターなどから約100人が参加。支援の取り組みや現場での連携事例を共有するなど、イベントは午前10時から午後1時まで行われた。

小林代表は「宮崎もやいの会」の相対しやすさや「支援の度のはさまに人々がいるのは重要だ」と述べ、関係機関の連携を模索するイベントを市民アライアンスで開いた。訪問看護ステーションや地域包括支援センターなどから約100人が参加。支援の取り組みや現場での連携事例を共有するなど、イベントは午前10時から午後1時まで行われた。

小林代表は「宮崎もやいの会」の相対しやすさや「支援の度のはさまに人々がいるのは重要だ」と述べ、関係機関の連携を模索するイベントを市民アライアンスで開いた。訪問看護ステーションや地域包括支援センターなどから約100人が参加。支援の取り組みや現場での連携事例を共有するなど、イベントは午前10時から午後1時まで行われた。

<編集後記> 久しぶりに広報誌「すてっぴ」を制作することになり、アプリのイラストレーターのツールを忘れていたりして時間がかかりましたが制作している思い出してきました。今回の広報誌の目的は、法人として活動したことなどを公に知らしめることが大事なので、今回のイベントに関する内容や報告を詳しく記載することによって、法人のミッションを周知する事にもつながるのではないかと制作しました

<お知らせ> 1: 今回のイベントに関する資料は、宮崎もやいの会のHPに掲載しています。また、参加者・スタッフの感想レポートも掲載しています。

2: 今回のイベントに関する所見を宮崎もやいの会のHPに掲載したのをブログに再掲載していますので、訪問をお願いします。

ブログは、ブルーアイランド <https://ameblo.jp/youkinepu/>

<連絡先> NPO法人宮崎もやいの会代表・小林順一 宮崎市丸島町4-3 第6シャトーモリオカ203

TEL & FAX: 0985-71-0036

<http://www.m-moyai.com/index.html>

mail: m-moyai@kag.bbq.jp